

少年メルダー隊通信

第68号
2020年
7月16日発行

SHONEN MELDÖR TAIT SUSHIN



ドクガキュピールとは どんな幹部だったのか？

選りすぐりの精鋭怪人で結成されたキュピール昆虫軍団。ひと癖もふた癖もある怪人たちの頂点に立っていたのがドクガキュピールである。ドクガキュピールとはどんな幹部だったのかここで振り返ってみよう。

■リーダーの素質
ドクガキュピールは神秘指数の高さ、驚異的な知能で、キュピール怪人たちからの絶対的な信頼をもって迎えられていた。

また、冷酷で強大なチカラをもつドクガキュピールの逆鱗に触れること自分達の死を意味する。そのため怪人たちはドクガキュピールの作戦に対して全力を注いでいた。一見、冷酷で残忍な性格と思われたドクガキュピールだったが、仲間の死に対しては哀悼の意を示し、キュピール怪人とは思えぬ情の深さが垣間見えたこともあったんだ。時に厳しく、時に優しい、気高き怪人だったからこそ、キュピール



ル昆虫軍団のメンバーはドクガキュピールを女王と称え、自らの命をかけた戦ったのかもしれない。

■繭の中から誕生
実はドクガキュピールは他のキュピール怪人とは違い、繭の中から誕生した特別な怪人である。

通常、キュピール怪人は神秘指数の高い人間にデモンズシールドを植え付け、それが発芽することで怪人へと変貌するが、ドクガキュピールについては人間の身体が用いられたと

ら神秘指数の高い強力な怪人を製造する方法を編み出していたのかもしれない。今となつては証拠は何もないが、もしその技術がもつと発達していたら、強力な怪人がデモンズシールドによって永遠の命を得ることも簡単にできていたかもしれない。超音戦士メルダーもかなり苦戦を強いられていたことだろう。恐ろしいことである。

■ドクガキュピールとの闘いについて
ドクガキュピールは

かなり手ごわく、殺人超音波と毒鱗粉による攻撃はメルドスーツをまとつていてもギリギリ耐えられるかどうかというダメージをあたえるものであり長期戦となれば敗北の危機があつたと、後に超音戦士メルダーのふたりが語っている。

それに中村博士による怪力破壊法暴走の工作がなければ昆虫軍団のアジトから生きて帰ることができなかつたかもしれないとも語っていた。ドクガキュピールとはそれくらい強い強敵であつたのだ。

おたより
おくってね



キュピールもくげき情報や、パトロール報告などを送ってね。超音戦士メルダーへの質問もおまちしています。

少年メルダー隊通信が
季刊になりました。

毎月16日に発行していた少年メルダー隊通信は季刊誌となりました。次号も絶対読んでくれ！

超音戦士メルダーのサイトはこれからも毎月16日更新です！みんなよろしくね！